

献辞

一九九八年三月、大塚喬重、清野惇両先生が本学を退職されることとなった。両先生の長年にわたる教育・研究ならびに大学運営へのご貢献に対して敬意と感謝の念を込めて、法学部一同謹んで本号を捧げます。

大塚先生は、東京大学法学部をご卒業後、共同通信社に入社され、ワシントン支局長・論説委員長等を歴任され、同社を退職された後、一九八八年四月に本学に赴任され、本学の発展のために多大のご貢献をいただきました。先生は、学部において、国際ジャーナリズム論、アメリカ事情、マスコミ論などの講義を担当され、法学研究科国際政治学専攻において、比較政治ならびに欧米政治研究担当の指導教授として、学生・院生の指導にあたられました。先生は、『ポスト・レーガン アメリカの混迷』の著書をはじめ、「修道法学」に掲載された「アメリカ政治報道に高まる批判―改革の試み、パブリック・ジャーナリズム―」をはじめとする諸論文において、アメリカ・ジャーナリズムの抱える諸問題を分析されるとともに、我が国のマスコミの現状にも警鐘を鳴らされ、解決すべき課題を指摘されました。

清野先生は、東北大学法学部をご卒業後、検事としてご活躍の後、弁護士登録されるとともに、独協大学法学部ならびに大学院において教鞭をとられました。本学には一九七八年四月に赴任され、本学の発展のために多大のご貢献をいただきました。先生は、学部において刑事訴訟法ならびに刑事学の講義を担当され、法学研究科法律学専攻において刑事訴訟法担当の指導教授として、学生・院生の指導にあたられ、また一九七九年度から三カ年度にわたり司法試験審査委員を務められました。先生は、『罰則を中心とした漁業関係法規の研究』『競輪の法的構造―公営競技の法的側面』などの著書や

少年法ならびに公務員の争議行為などに関する多数の論文を執筆され、また私立大学の管理・運営に関する貴重な研究を
発表されました。

今年度、両先生をお送りすることは、誠に残念なことではありますが、定年退職ということでお引き留めすることもで
きず、今後は両先生のご貢献に応えるべく法学部の発展のために努力いたす所存です。両先生におかれましては、今後と
もご健康に留意されご活躍されることを祈念いたしますとともに、わたくしどもに引きつづきご指導・ご鞭撻を賜ります
よう心からお願い申し上げます。

広島修道大学法学部長 植田 博